

議長ら再び明言避ける

道議会喫煙所 質問状に回答

道議会新庁舎への喫煙所設置を巡り、自民党・道民会議と同党派所属の村田憲俊議長、鈴木直道知事は、札幌のまちづくり団体「北

海道」の未来を拓く会」が再提出した公開質問状に回答した。「禁煙にしている他の道有施設と同じ対応が常識ではないか」との問いに

対し、3者とも態度を明確にしなかった。

いずれも25日付。自民党派は「会派内の手続きを進めるが、関係法令を順守し適切な受動喫煙対策に取り組む」、村田氏は「関係法令を順守し適切な受動喫煙対策を進める」、知事は「道議会で適切に対処されるも

のだ」と答えた。

村田氏と知事の回答は前回とほぼ同じで、自民党派は前回、村田氏と同じ認識として無回答だった。拓く会の新藤大次郎会長は「議員特権との道民の批判を無視するのは許されない。喫煙所を認めたら知事の資質も問われる」と語った。

改正健康増進法の一部施行で、7月から全国の行政機関は敷地内禁煙となる中、道議会は議決機関として対象外。来年1月完成予定の新庁舎は、自民党派だけが会派の部屋に喫煙所の設置を決めたが、反発を踏まえ、所属議員から改めて意見を聞く。(佐藤陽介)